

段丘と地すべり地形(環境課まとめ)

段丘

形成過程

河川や海などの侵食・堆積作用と、地殻変動による土地の隆起が組み合わさって形成される

- ①河川が運んできた土砂が堆積して平坦な河原が形成される
- ②地殻変動によって土地が隆起したり、気候変動で海面が低下したりすることで、河川が再び侵食を開始する
- ③かつての河原が一段高い場所に残り、「段丘面」と呼ばれる平坦な地形になる
- ④この過程が繰り返されることで、階段状の地形（河岸段丘や海岸段丘）が形成される

見た目の特徴

河川や海に沿って広がる、広くてなだらかな平坦面（段丘面）と、その前面にある急な斜面（段丘崖）が明瞭な階段状になる。複数の段が見られる場合、高い段ほど古い時代に形成されたものである

地盤の安定性

一般的に、砂や礫からなる堆積物が締まっていることが多く、比較的安定した地盤とされる

地すべり地形

形成過程

斜面の一部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと下方に移動することで形成される

- ①粘土のような水を通しにくい地層や、地下水の存在が地すべりの原因となる
- ②大雨や地震が引き金となり、地盤が滑りやすい状態になる
- ③不安定になった土塊が、すべり面に沿って下方へ移動する

見た目の特徴

地すべりが発生した上部には、半円状の崖「滑落崖」ができる。滑落崖の下には、滑り落ちた土砂が積み重なった「移動体」ができ、デコボコした凹凸のある地形となる。全体として不規則な階段状に見えることがあり、複数の地すべりが重なってできることもある

地盤の安定性

地すべりが発生した場所は不安定な地盤であり、再び地すべりが発生するリスクがある